

第 5 章

園の課題および 保育者の資質向上

日本女子大学講師 高櫻 綾子

- 第 1 節 園で特に重点的に取り組んでいる課題
- 第 2 節 園の保育実践上、運営上の課題
- 第 3 節 保育者の資質向上に必要なこと
- 第 4 節 園内研修
- 第 5 節 園外研修
- 第 6 節 必要な研修内容
- 第 7 節 保育所保育指針改定による変化

第1節

園で特に重点的に取り組んでいる課題

「乳児（0～2歳児）の保育の充実」と「幼児（3～5歳児）の保育の充実」が共通の重点的な課題である一方、多様な子どもへの保育と家庭や地域への支援も保育所、幼稚園、認定こども園の重要な役割となっている。

園の課題を探るには、各園が日々の保育実践において何を重視しているのかと、そのために何が必要なのかを知ることが重要である。そこでまず、「Q. 貴園が現在、特に重点的に取り組んでいる課題を3つまで選んで記入してください」と求め、日々の保育実践において重点的に取り組んでいる課題について調べた（表5-1-1）。

表5-1-1をみると、国公立幼稚園で1位に「小学校教育への滑らかな接続」があげられている点に他の施設との差異が見受けられる一方、すべての施設で上位に「乳児（0～2歳児）の保育の充実」「幼児（3～5歳児）の保育の充実」が入っている点に共通の認識が認められる。これは保育所、幼稚園、認定こども園が乳幼児期の保育・教育を担う施設であることから当然の結果ともいえるが、実際にどの施設においても乳幼児の健やかな心身の発達を促すことを目的とし、日々の保育に取り組んでいることを確かめる結果でもあり、大きな意味もっている。

また表5-1-1には「障害のある子どもや特別に支援を要する子どもの支援」や「園の保護者への子育て支援」「地域の保護者への子育て支援」「保護者への情報発信」も重点的な課題として取り上げられており、多様な子どもへの保育が必要になってきている現状や園内における子どもへの関わりだけでなく、家庭や地域を支えることが保育所、幼稚園、認定こども園の重要な役割となっていることがわかる。

その一方で表5-1-1からは、「乳児（0～2歳児）の保育の充実」や「幼児（3～5歳児）の保育の充実」および「小学校教育への滑らかな接続」という主たる課題を遂行する上で、「施設・設備、教材など、環境の整備」や「保育者同士が学び合う園の風土づくり」「若手保育者の育成」も重要視していることがうかがえる。そこでこの点について、次の「園の保育実践上、運営上の課題」についての結果（表5-2-1）とあわせて検討する。

表5-1-1 園で特に重点的に取り組んでいる課題（園の区分別）

(%)

	1位		2位		3位		4位		5位	
国公立幼稚園	小学校教育への滑らかな接続	50.4	幼児（3～5歳児）の保育の充実	42.5	障害のある子どもや特別に支援を要する子どもへの支援	40.6	園の保護者への子育て支援	21.3	保育者同士が学び合う園の風土づくり	20.0
私立幼稚園	幼児（3～5歳児）の保育の充実	55.8	施設・設備、教材など、環境の整備	28.0	保護者への情報発信	24.4	保育者同士が学び合う園の風土づくり	24.3	若手保育者の育成	21.4
公営保育所	幼児（3～5歳児）の保育の充実	44.9	乳児（0～2歳児）の保育の充実	40.8	障害のある子どもや特別に支援を要する子どもへの支援	36.3	園の保護者への子育て支援	24.2	保育者同士が学び合う園の風土づくり	19.8
私営保育所	乳児（0～2歳児）の保育の充実	48.4	幼児（3～5歳児）の保育の充実	44.6	保育者同士が学び合う園の風土づくり	23.8	若手保育者の育成	20.1	園の保護者への子育て支援	18.6
認定こども園	幼児（3～5歳児）の保育の充実	41.7	乳児（0～2歳児）の保育の充実	29.5	施設・設備、教材など、環境の整備	25.2	若手保育者の育成※ 保育者同士が学び合う園の風土づくり※	22.3 22.3	地域の保護者への子育て支援	19.4

注1) 「その他」(自由記述)を含む21項目のなかから3つまで選択。

注2) 上位5項目を表示。

注3) ※は同率、同位。